

# 女川町まちづくりワーキンググループ 瓦版

第  
6/7  
号

女川町まちづくりワーキンググループの内容をお知らせします

## 第6回、第7回 女川町まちづくりワーキンググループが 開催されました！

第6回ワーキンググループでは、第4回、第5回と同様グループ毎に検討テーマや進め方を決め、中間報告に向けた具体的な検討を行いました。検討時間に限りがある中で、いずれのグループも活発に意見交換が行われました。

9月末に開催された第7回ワーキンググループでは、最後の詰めめの検討や、中間報告のための最終確認を行いました。検討の進捗は異なりますが、グループ毎に工夫をしながらとりまとめを行っていました。



### 第6・7回 ワーキンググループ 開催概要

第6回 WG のグループワークは、前回と同じテーマを設定してその続きを検討したり、新しいテーマを設定して新たな検討を行ったり、グループの進捗状況にあわせて検討が行われました。

第7回 WG のグループワークは、検討が足りない部分について議論をするとともに、各グループで第3回から第6回までに検討してきた内容をとりまとめ、第8回の中間報告に向けた準備を行いました。

各グループの検討結果は裏面をご覧ください。

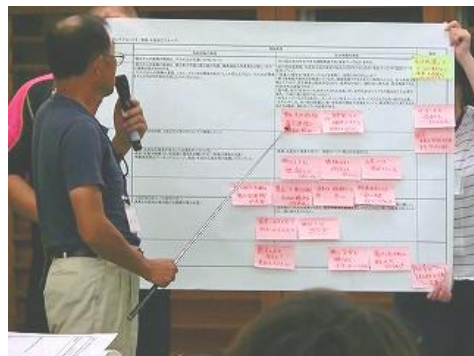
- 日時  
第6回：平成24年9月13日(木)  
第7回：平成24年9月27日(木)  
各回ともに 18:45～20:45
- 場所  
女川町総合体育館 2階剣道場

- 第6回 WG のプログラム ●

  - 1 説明
    - ・先進地視察の報告
  - 2 グループワーク
    - ・進捗にあわせてグループ毎に検討
  - 3 まとめ

- 第7回 WG のプログラム ●

  - 1 説明
    - ・次回の中間報告について
  - 2 グループワーク
    - ・中間報告内容の最終確認
  - 3 まとめ



女川町役場 復興推進課

〒986-2261 宮城県牡鹿郡女川町女川浜字大原 316 電話:0225-54-3131(代表)

### ● 第6、7回 WG 各グループの検討結果 ●

第6回、第7回 WG における、各グループの主な検討内容と中間報告に向けたとりまとめの内容は、以下のとおりです。

#### 公共施設・街並み

##### 第6、7回検討結果（検討テーマ：具体的な施設と施設配置）

- 【ターゲット】
- 50～60歳代の女性：駅周辺、海の駅等の販売施設
- 若者：マリナー、レジャー用スポーツ広場
- 【施設配置の検討】
- ①女川駅周辺の商業エリア（駅前～海岸線）
  - 海の駅、観光市場、ゆぼっぼの合築施設
  - マリナー ● 海釣り公園 ● 旅客船ターミナル
  - バスターミナル ● 駅前広場 ● 交番
  - 震災遺構
- ②女川駅横の高台
  - 町役場 ● 生涯学習センター ● 消防署
  - 保育施設 ● 駐車場
- ③（現位置）● 地域医療センター
- ④（現位置）● 勤労青少年センター
- ⑤地域医療センターの横
  - 慰霊施設
- ⑥清水、新田の低地部（公園エリア）
  - 運動公園 ● キャンプ場 ● 清水の遊歩道
  - ハイキングロード ● 親水公園 ● 桜並木の創出
  - スポーツ合宿のできる施設



#### 漁業・水産加工

##### 第6回検討結果（検討テーマ：情報発信方法 ※前回に引き続き検討）

- 【具体的な実現方法】
- 安全性の検証を産学連携で検証し、「安全マーク」を確立する
- 放射能に敏感な子育て層以外に対して、安全性のPRを行う
- 町で安全性を検証し、インターネットでPRする
- 【町民・行政のかかわり方】
- 町として女川産の安全性の認証を行ってほしい。
- みんながまとまることが一番大切。
- 【実施場所】
- 活動する場が無い。取組みのための場所や新たな組織が必要である。
- 【取り組んでいく上での課題】
- 産業の再生と生活再建とどちらが優先なのか明確にする必要がある。
- インターネットなどの情報発信は有効であるが、専門知識のある人が行う。

##### 第7回検討結果

これまでの検討内容の確認と、今後の進め方について議論

- 【今後の進め方について】
- 女川町らしいまちの景観やあり方を、先進事例を参考に議論したい。
- 生活再建について考えていく必要がある。



## 観光・商業 (A)

### 第6回検討結果 (検討テーマ: スポーツを活かした観光と商店街)

#### 【現状の課題】

- スポーツ大会と商店街の連携不足
- 多目的利用が可能な広いスペースがない
- 水揚げした魚をすぐに食べられる施設がない
- 観光客が一堂に食事できる店がない
- スポーツ施設の老朽化
- 芝生グラウンドの不足
- リピーターが少ない

#### 【解決策】

- スポーツ施設兼イベント広場
- オートキャンプ場
- 水揚げした魚をすぐに食べられる水産市場
- 津波展示施設

#### 【立地】

- 駅を中心に商店街、スポーツ施設、旅館、駐車場をコンパクトに配置
- オートキャンプ場は海の近くに整備

#### 【ソフト対策】

- 観光客が利用できるよう、休日に学校の施設を開放
- 女川特有の商品開発
- 東北大との連携により防災学習を推進

#### 【担い手】

- 住民主体でイベント開催
- 住民が観光客を案内する

#### 【実現に向けた課題】

- 各施設を整備できる場所の確保と、観光客を受け入れる体制の整備



### 第7回検討結果

※これまでの検討内容の確認とキャッチコピーの検討

- キャッチコピー: “なんかいいよね女川”
- (他の案: 自然がおいしい女川/夢がかなう場所女川町/町民すべてがキャストです/再会のまち女川町 など)

## 観光・商業 (B)

### 第6回検討結果 (検討テーマ: スポーツを活かした観光 ※前回に引き続き検討)

#### 【実現させたいこと (目指す方向)】

- スポーツを核に女川を復興させる
- 新たなスポーツができるようにする
- 石巻市の定住人口を女川町に誘致できるようにする

#### 【コンセプト】

- スポーツと健康・福祉を絡める
- スポーツ施設を避難所として活用
- スポーツをしに来た人に女川の食文化を発信

#### 【ハード】

- 温水プール
- 自炊できる合宿施設
- 1万5千人規模のスタンド (ナイター設備、人工芝)

#### 【ソフト、担い手】

- 民間の活力を積極的に活用する
- キャンプ場、クルージング、ダイビングの運営者を誘致する
- イベントの開催し冬場に観光客を呼び込む

#### 【立地】

- 駅から徒歩圏内にスポーツ施設をつくる
- 浦宿が適地と考えられる



### 第7回検討結果

※これまでの検討内容の確認とキャッチコピーの検討

- キャッチコピー: “居こちのいいまち おながわ”
- (観光客がもう一度来たいと思う町、町民が楽しく快適に過ごせる町)



## 教育・育児

### 第6回検討結果 (検討テーマ: 保育)

- スローガン: “安全に子育てできるまち”

#### ① 子育て支援センターのあり方

##### 【具体的な実現方法】

- 現状のサービス・規模を維持
- 歩いていくことが出来る場所やバス停の近くに設置
- 他の行政施設と合築でもよい

##### 【町民・行政の関わり方】

- ボランティアやリタイヤした人などを活用する。

#### ② 保育所のあり方

##### 【具体的な実現方法】

- 4か所 (1保、4保、宮ヶ崎、シビックコア内) 設置
- 新たに整備する保育所は、小さくてもよい。
- 足腰を強くするためにも、歩いて通える距離に配置



### 第7回検討結果 (検討テーマ: 教育)

- スローガン: “平成27年度までの早期実現を”

#### 【感じている不安】

- 校舎はどいつ・どこに建つのか
- 先生1人に対して生徒の数はどれくらいか
- どんな施設となるのか (プール、図書室、運動場等)

#### 【具体策】

- オリンピックを目指すヨット教室、カヌー教室を行う
- 図書館に漁港らしさを持たせる (魚関連本の充実等)
- 課外授業で魚のさばき方、サケの放流などを行う
- 防災教育を継続して実施する
- 女川の食材を使った給食を提供する

#### 【担い手】

- 学校と地域 (漁師、各浜の事業団、各浜のお母さん等) が連携を図り、地域のことを子供たちに伝えていく



## 福祉・コミュニティ・交通

### 第6、7回検討結果 (検討テーマ: 町内での移動手段 ※前回に引き続き検討)

#### 【公共交通の中の“バス”による課題解決策】

##### 【車体】

- 利用者数に応じて車体の大きさを変える
- 車椅子の人でも使えるようにリフト付バスを走らせる
- ルート毎に車体を色分けする

##### 【ルート】

- 利用者の用途に合わせたルート設定
- 乗降自由

##### 【料金】

- 1コイン (100円) で運用
- 町民、町内労働者の割引
- 回数券の販売や割引券の導入など商店街と連携

##### 【本数】

- 利用者数に応じた運行本数
- 乗り継ぎしやすい時刻表 (JR⇄バス)

##### 【バス停】

- 屋根等を設置し人々が集える場所にする
- 行先別に色分けする

##### 【福祉の視点からの課題解決策】

- 町の力を借りながら町民で構想をつくる。
- ホワイト人材センター (福祉交通部門) を立ちあげる
- 統合した学校の旧校舎を使う
- 町民主体で行政や民間と協力して運営を行う

